

13: 成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)

1. WGメンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 吉満 誠	鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科	血液・膠原病内科学
石田 高司	名古屋大学大学院医学系研究科	分子細胞免疫学
宇都宮 與	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科
加藤 光次	九州大学病院	血液・腫瘍・心血管内科
鈴宮 淳司	社会医療法人駿甲会 コミュニティーホスピタル甲賀病院	血液内科・内科
東梅 友美	山形大学大学院医学系研究科	内科学第三講座 血液・細胞治療内科学分野
中瀬 浩一	愛媛県立中央病院	血液内科
名和 由一郎	愛媛県立中央病院	血液内科
菱澤 方勝	京都桂病院	血液内科
福島 卓也	琉球大学医学部	保健学科 病態検査学講座 血液免疫検査学分野
和氣 敦	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院分院	血液内科
崔 日承	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	血液・細胞治療科
朝倉 義崇	沖縄県立中部病院	腫瘍・血液内科
中野 伸亮	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科
藤原 弘	三重大学大学院医学系研究科	個別化がん免疫治療学分野
町田 真一郎	東海大学医学部附属病院	血液腫瘍内科
澤山 靖	長崎大学病院	血液内科(原研内科)
井上 明威	熊本大学病院	血液内科
今田 和典	大阪赤十字病院	血液内科
吉田 功	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター	血液腫瘍内科
藤 重夫	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	血液内科
福田 隆浩	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
進藤 岳郎	京都大学医学部附属病院	血液内科
徳永 雅仁	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科
村主 啓行	京都大学医学部附属病院	血液内科
森島 聡子	琉球大学病院	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座(第二内科)
友利 昌平	琉球大学病院	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座(第二内科)
清水 拓也	京都大学医学部附属病院	血液内科

森田 真梨	京都大学大学院医学研究科	血液・腫瘍内科学
伊藤 歩	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
北尾 章人	神戸大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
坂本 光	独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター	血液内科
武田 航	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
田中 喬	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
藤野 聡司	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科
牧山 純也	(地方独立行政法人)佐世保市総合医療センター	血液内科
阿久澤 有	獨協医科大学埼玉医療センター	糖尿病内分泌・血液内科
糸永 英弘	長崎大学病院	血液内科(原研内科)

2. 会議開催記録(2022年1月-12月)

日時	場所	会議内容
2022年4月20日	リモート会議	宇都宮先生より「ATLに対する自家移植」に関する研究の論文受理の報告。井上先生、「ATL移植におけるATGによるGVHD予防の意義」、徳永先生「近年のATLにおける臍帯血移植の成績向上とその位置づけ」、森島先生「ATLにおけるHLAの意義」、友利先生「急性白血病・悪性リンパ腫と比較した、ATLの移植における合併症の特徴」、坂本先生「高齢者ATLへの同種移植における予後因子の検討」と各先生より、研究の進捗状況についてご報告頂いた。また藤先生より「成人T細胞白血病(ATL)に対する同種移植後の予後に移植前モガムリズマブ投与が与える影響に関する研究(二次調査研究)」の進捗状況、井上先生よりセンターエフェクト研究の申請状況について報告された。(参加数19名)
2022年11月9日	リモート会議	徳永先生より「近年のATLにおける臍帯血移植の成績向上とその位置づけ」、藤先生より「成人T細胞白血病(ATL)に対する同種移植後GVHD発症のメカニズムと関連する因子に関する研究」の論文投稿状況について報告。井上先生より「ATL移植におけるATGによるGVHD予防の意義」の論文準備状況について報告。森島先生「ATLにおけるHLAの意義」、友利先生「急性白血病・悪性リンパ腫と比較した、ATLの移植における合併症の特徴」、坂本先生「高齢者ATLへの同種移植における予後因子の検討」、藤先生より「成人T細胞白血病(ATL)に対する同種移植後の予後に移植前モガムリズマブ投与が与える影響に関する研究(二次調査研究)」、糸永先生より「ATLに対する同種骨髄移植と同種末梢血幹細胞移植の比較」、「若年ATL

		<p>症例における同種造血幹細胞移植の成績」と各先生より、研究の進捗状況についてご報告頂いた。また藤先生より「成人T細胞白血病（ATL）に対する同種移植後の予後に移植前モガムリズマブ投与が与える影響に関する研究（二次調査研究）」の進捗状況、井上先生よりセンターエフェクト研究の申請状況について報告された。また保存検体使用研究である「ATLにおけるKIRタイピング」研究について森田先生、進藤先生よりご紹介いただいた。（参加数 17 名）</p>
--	--	--

3. メーリングリストによる意見交換（メーリングリスト開設から 2022 年 12 月末時点まで）
（ 3088 ）回

4. WG の今後の活動方針・抱負など

2022 年は、打ち合わせ会を 2 回、リモート開催した。2022 年にはこれまで予後不良とされてきた「臍帯血移植」が近年は他のソースと同等である可能性を報告した。

現在論文投稿段階の研究が 2 つ、学会発表済、論文草稿準備中の研究が 2 つ、学会発表予定 1 つと活発に活動している。その他「ATL 臍帯血移植における CMV 感染の影響」、「骨髄移植と末梢造血幹細胞移植の影響」、「若年者 ATL の移植の特徴」、「ATL 移植とセンターエフェクト」、「近年における移植前モガムリズマブ使用と予後」について TRUMP データ・二次調査を用いてのみ解析可能なクリニカルクエスチョンに対して検討を進めている。

今後も ATL に対する移植治療の最適化を目指す研究を進めていきたい。